

主要参考文献

- 『岩波 古語辞典』(補訂版) 大野晋他, 岩波書店, 1990.
- 『学研 現代新国語辞典』(改訂第三版) 金田一春彦編, 学習研究社, 2002.
- 『角川新版 古語辞典』久松潜一他, 角川書店, 1993 (1958).
- 『角川 古語大辞典』CD-ROM 版 角川古語大辞典編集委員会編, 角川書店, 2002.
- 『言語学大辞典』(全6卷) 亀井孝他, 三省堂, 1992~1998.
- 『現代国語例解辞典』林巨樹監修, 小学館, 1985.
- 『広辞苑 第五版 CD-ROM 版』新村出記念財団, 岩波書店, 2000.
- 『国語学研究事典』佐藤喜代治編, 明治書院, 1977.
- 『国語学大辞典』国語学会編, 東京堂出版, 1980.
- 『時代別 国語大辞典 上代編』上代語辞典編修委員会, 三省堂, 1967.
- 『時代別 国語大辞典 室町時代編』1~5 室町時代語辞典編修委員会, 三省堂, 1994
~2000.
- 『小学館 古語大辞典』中田祝夫他編, 小学館, 1983.
- 『新明解 古語辞典』第二版, 金田一春彦編, 三省堂, 1993.
- 『全訳古語例解辞典』第二版, 北原保雄編, 小学館, 1994.
- 『日葡辞書: 邦訳』土井忠生, 岩波書店, 1980.
- 『日本語学研究事典』飛田良文主幹編集, 明治書院, 2007.
- 『日本国語大辞典』第二版(全13巻) 日本国語大辞典第二版編集委員会, 小学館, 2000
~2002.
- 『日本語文法大辞典』山口明穂・秋本守英編, 明治書院, 2001.
- 『日本文法大辞典』松村明編, 明治書院, 1971.
- 阿部秋生他 校注・訳(1994~1998)『源氏物語』(全6冊) 小学館.
- 伊藤博 校注(1985)『万葉集』角川書店.
- 井上和子(1985)『変形文法と日本語(下)』大修館書店.
- 今泉喜一(1995)「日本語構造伝達文法・序論」『杏林大学外国語学部紀要』第7号.
- (2000)『日本語構造伝達文法』 摺籃社.
- (2003)『日本語構造伝達文法 発展 A』 摺籃社.
- (2005a)『日本語構造伝達文法 改訂05年版』 摺籃社.
- (2005b)「日本語構造伝達文法(11)~原因態-(s)as-, 許容態-e-, 原因-許容態

- (s)as-e-～」『杏林大学外国語学部紀要』第17号.
- (2006) 「古代日本語のテンスとアスペクト-図示の可能性を探る」『実験音声学と一般言語学』城生佰太郎博士還暦記念論文集編集委員会 東京堂出版.
- 岩井良雄 (1970) 『日本語法史 奈良・平安時代編』笠間書院.
- (1973) 『日本語法史 室町時代編』笠間書院.
- 大野 晋 (1955) 「萬葉時代の音韻」『萬葉集大成6 言語篇』平凡社.
- (1978) 『日本語の文法を考える』岩波書店.
- (1988) 『日本語の文法「古典編」』角川書店.
- (1993) 『係り結びの研究』岩波書店.
- 奥津敬一郎 (1967) 「自動化・他動化および両極化転形——自・他動詞の対応——」『国語学』70 国語学会.
- 小沢重男 (1997) 『蒙古語文語文法講義』大学書林.
- 小田 勝 (2007) 『古代日本語文法』おうふう.
- 尾上圭介 (2001) 『文法と意味I』くろしお出版.
- 川端善明 (1979) 『活用の研究』II 大修館書店.
- (1997) 『活用の研究』I・II 清文堂.
- ガニヒシグ バルガンスレン (2005) 『日本語の受動態とモンゴル語の受動態の対照研究』杏林大学大学院国際協力研究科修士論文.
- 木田章義 (1988) 「古代日本語の再構成」「ことばと文字」中央公論社.
- 清瀬義三郎則府 (1989) 『日本語文法新論』桜楓社.
- (2002) 「日本語文法の歴史的研究における理論と記述」『日本語文法』2卷2号 日本語文法学会.
- 金田一春彦 (1967) 『日本語音韻の研究』東京堂出版.
- 釘貫 亨 (1991) 「助動詞『る・らる』『す・さす』成立の歴史的条件について」『国語学』164集.
- (1996) 『古代日本語の形態変化』和泉書院.
- 顧 妍 (2007) 「使役表現における日中対照研究——「せる・させる」と「使役動詞」を中心について」杏林大学大学院国際協力研究科修士論文.
- 小島憲之他 校注・訳 (1994~1996) 『萬葉集』(全4冊) 小学館.
- 校注・訳 (1994, 1996, 1998) 『日本書紀』(全3冊) 小学館.
- 後藤惣一郎・渡部誠一郎 (1993) 「『浜辺の歌』と『嗚呼玉杯』〈小伝〉成田為三・楠正一』秋田魁新報社.
- 小松英雄 (1981) 『日本語の世界7 日本語の音韻』中央公論社.
- (1999a) 『日本語はなぜ変化するか [母語としての日本語の歴史]』笠間書院.
- (1999b) 「日本語進化のメカニズム——環境への適応としての言語変化——」

- 『国語学』196集.
- 坂梨隆三 (2006) 『近世語法研究』武藏野書院.
- 信太知子 (2007) 「古代語終止形の機能——終止連体同形化と関連させて——」『神女大國文』18 神戸女子大.
- 渋谷勝己 (2005) 「日本語可能形式にみる文法化の諸相」『日本語の研究』第1巻3号.
- 城生佰太郎 (1998) 『日本語音声科学』バンダイ・ミュージックエンタテインメント.
- 白藤禮幸 (1982) 「古代の文法I」『講座国語史4 文法史』大修館書店.
- 城田 俊 (1993) 『現代ロシア語文法』東洋書店.
- (1998) 『日本語形態論』ひつじ書房.
- 須賀一好・早津恵美子編 (1995) 『動詞の自他』ひつじ書房.
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』むぎ書房.
- (1996) 『形態論・序説』むぎ書房.
- 鈴木 泰 (1991) 「自動詞と他動詞」『別冊国文学38 古典文法必携』學燈社.
- 杉藤美代子 (1996) 『日本語の音』和泉書院.
- 坪井美樹 (2007) 『日本語活用体系の変遷 増訂版』笠間書院.
- 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版.
- 中條 修 (1989) 『日本語の音韻とアクセント』勁草書房.
- 中西宇一 (1996) 『古代語文法論 助動詞篇』和泉書院.
- 仁田義雄編 (1991) 『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版.
- 野田尚史 (1991) 「文法的なヴォイスと語彙的なヴォイスの関係」『日本語のヴォイスと他動性』くろしお出版.
- (1997) 「日本語とスペイン語のボイス」『日本語とスペイン語(2)』 国立国語研究所.
- 松尾聰他 校注・訳 (1997) 『枕草子』小学館.
- 松下大三郎 (1928) 『改撰標準日本文法』中文館／1984 勉誠社.
- 松村 明編 (1969) 『古典語現代語 助詞助動詞詳説』學燈社.
- 松本克己 (1995) 『古代日本語母音論——上代特殊仮名遣の再解釈』ひつじ書房.
- 馬淵和夫 (1971) 『国語音韻論』笠間書院.
- (1972) 『上代のことば』至文堂.
- 村木新次郎 (1991) 『日本語動詞の諸相』ひつじ書房.
- 室伏信助訳注 (2001) 『新版 竹取物語』角川書店.
- 森 博達 (1991) 『古代の音韻と日本書紀の成立』大修館書店.
- 森田 武 (1977) 「音韻の変遷(3)」『岩波講座日本語5 音韻』岩波書店.
- 森田良行 (2002) 『日本語文法の発想』ひつじ書房.
- 柳田征司 (1994) 「意志動詞の無意志的用法——あわせて使役表現のいわゆる許容・放

- 任・隨順用法について——』『国語論究5 中世語の研究』明治書院.
- 山内洋一郎（2003）『活用と活用形の通時的研究』清文堂.
- 山口佳紀（1985）『古代日本語文法の成立の研究』有精堂.
- 山口佳紀・神野志隆光 校注・訳（1997）『古事記』小学館.
- 山崎良幸（1965）『日本語の文法機能に関する体系的研究』風間書房.
- 湯澤幸吉郎（1981）『室町時代言語の研究』風間書房.
- （1991）『江戸言葉の研究』（増訂三版）明治書院.
- 吉川武時（1989）『日本語文法入門』アルク.
- 「動詞の自他について」2005～2008検索, <http://homepage3.nifty.com/taketoki/jita.html>.
- 林 青権（2005）「現代日本語における実現可能文の位置付け」『日本語学会2005年度秋季大会発表予稿集』.

*本書中の「万葉」は「万葉集」、「書紀」は「日本書紀」、「書紀歌謡」は「日本書紀歌謡」、「源氏」は「源氏物語」、「竹取」は「竹取物語」の略である。